

## 育種価のお話 その1 (育種価を利用しよう)

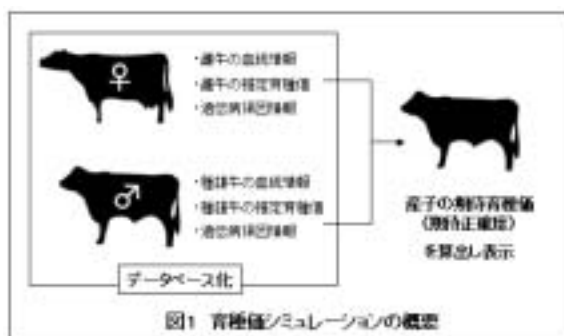
和牛の改良分野では、近年「育種価」という用語が盛んに使われるようになりました。

この「育種価」とは、簡単にいえば、牛の通信簿とも言えるもので、個体の持っている能力を統計的に評価し、特徴を数値で表すことが出来るため、この値に基づいた計画的な交配を行うことにより、効果的な改良を行うことが可能となります。また、肥育分野においても、肥育素牛の育種価が判明していれば、その能力に見合った飼養管理をすることにより、生産の効率化を図ることが期待されます。

しかし、この便利な「育種価」を生産現場で活用していくためには、育種価の仕組みや特性 欠点といったことを十分に理解する必要があることから、なかなか積極的な利用は図られていないのが現状です。

畜産試験場では、この育種価の活用を目的として、任意の交配による産子の育種価を算出するシミュレーションシステムの検討を行っています(下図)。このシステムはまだ試作段階であり、雌牛の育種価情報自体が畜主の個人情報でもあるために公開はしていませんが、ちょっとパソコンの知識があれば、自分でも作成が可能です。そこで、今後隔号で、育種価の算出方法や具体的な活用方法を数回に分けて解説していこうと考えていますので、よろしくお願いします。(つづく)

(肉牛研究室 川田智弘)



畜産試験場だより No.27  
平成 16 年 6 月 20 日 発行  
栃木県畜産試験場

〒321-3303

芳賀郡芳賀町稲毛田 1917 028-677-0301  
e-mail chikusan-s@pref.tochigi.jp